

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
84	2006/4/21	60084	日本化薬株式会社	BCG・コンノート株	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	牛型結核菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
85	2006/4/21	60085	中外製薬株式会社	トシリズマブ(遺伝子組み換え)	ガラクトース	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
86	2006/4/21	60086	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ブタラードウォーター	ブタ脂肪	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
87	2006/4/21	60087	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタ胃液	不明	製造工程	無	無	無			
88	2006/4/21	60088	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	プリマトンHS/UF	ウシ脾臓、心臓、ウマ脾臓、豚肉	ウシ: 米国、ウマ: 米国、カナダ、ブタ: 米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
89	2006/4/21	60089	中外製薬株式会社	1. トラスツズマブ(遺伝子組換え) 3. ストレプトコッカスピオゲネス(A群3型)Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	バンクレアチン	ブタ脾臓	1米国、カナダ 3、日本、米国、カナダ、フランス	製造工程	無	無	無			
90	2006/4/21	60090	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え) レノグラスチム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え) トシリズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	不明	製造工程	無	無	無			
91	2006/4/21	60091	中外製薬株式会社	レノグラスチム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	不明	製造工程	無	無	無			
92	2006/4/21	60092	中外製薬株式会社	レノグラスチム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ脾臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
93	2006/4/21	60093	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
94	2006/4/21	60094	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
95	2006/4/24	60095	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
96	2006/4/24	60096	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(30)	2004年に英国の国立血液サービス・保健省感染症センターの感染症サーベイランスに報告された輸血伝播性感染と疑われた症例は34例であった。そのうちE型肝炎1例のみが輸血を介して伝播した感染症と確定された。ドナーが献血23日後に黄疸を発症し、保管サンプルで、HEV RNA陽性を確認した。赤血球輸血を受けたレシピエント(男、65才)は2ヵ月後にHEV RNAとHEV IgMが陽性であった。解析の結果、ドナーとレシピエントのウイルスは同一であることが示された。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 451-459	2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	カナダ Canadian Blood Services	2005年8月15日、カナダ血液サービスは、英国やフランスなどの最新のセーフガード情報に基づき、vCJDに関連した供給停止措置の変更を行った。また刺青やピアスをしている人などに対する一時的供血停止の変更を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えたと予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
97	2006/4/24	60097	日本製薬株式会社	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005 ;11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6800倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えたと予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
98	2006/4/24	60098	日本製薬株式会社	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Nat Med 2005 ;11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005 年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、バルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
99	2006/4/24	60099	沢井製薬株式会社	トロンビン	トロンビン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
100	2006/4/25	60100	大日本住友製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	加熱人血漿たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
101	2006/4/25	60101	大日本住友製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	鶏卵由来成分	鶏卵		製造工程	無	無	無			
102	2006/4/25	60102	大日本住友製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ウシ血清由来成分	ウシ血液	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
103	2006/4/25	60103	大日本住友製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
104	2006/4/25	60104	大日本住友製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ヒツジ血清由来成分	ヒツジ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
105	2006/4/25	60105	大日本住友製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ヒトリンパ芽球細胞樹立株ナマルバ細胞	ヒト細胞		製造工程	無	無	無			
106	2006/4/25	60106	日本メジック株式会社	人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
107	2006/4/26	60107	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球免疫ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
108	2006/4/26	60108	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末梢血	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の新潟県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月28日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
109	2006/4/26	60109	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の新潟県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月28日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
110	2006/4/26	60110	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の新潟県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
111	2006/4/26	60111	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
112	2006/4/26	60112	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
113	2006/4/26	60113	セローノ・ジャパン株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日-2005年9月28日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例, 症例1例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例。-Montana州Carbon郡, Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月28日~2005年9月14日):ウマにおいて疑い例9例, 症例6例, ヤギにおいて疑い例2例。-Wyoming州Big Horn郡, Fremont郡, Goshen郡, Hot Springs郡, Park郡, Platte郡, Sublette郡, Washakie郡の農場(15件)(アウトブレイクの開始日2005年8月21日~2005年9月15日):ウマにおいて疑い例84例, 症例15例, ウシにおいて疑い例855例, 症例7例, ヤギにおいて疑い例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイルス 感染	OIE Disease Information 18(40) 2005年10月7日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 19。今回報告終了日ー2005年10月2日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細ーColorado州Delta郡, Mesa郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月5日, 2005年9月19日):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例30例, 症例1例ーIdaho州Bear Lake郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月16日):ウマにおいて疑い例14例, 症例2例, ウシにおいて疑い例360例ーUtah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日):ウマにおいて疑い例7例, 症例1例ーWyoming州Bighorn郡, Carbon郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡, Platte郡の農場(13件)(アウトブレイクの開始日2005年9月12日~2005年9月24日):ウマにおいて疑い例393例, 症例15例, ウシにおいて疑い例2100例, 症例5例。
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイルス 感染	ProMED 2005年10月7日	2005年10月4日, ニューヨーク州Plum Islandの外来性動物疾患診断研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で, 初の水疱性口内炎New Jersey 株(VS-NJ)感染症例を確認した。VS-NJウイルスは, 発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は, 2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口内炎症例である。加えて10月5日に, アイオワ州Amesの国立獣医学研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある別の施設で飼育されていたウマについて, ウイルス分離により水疱性口内炎と診断確定した。問題の2施設は同じScotts Bluff郡内にあるが, それぞれは約24マイル離れている。

No.	受理口	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイルス 感染	OIE Disease Information 18(41) 2005年10月14日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 20。今回報告終了日ー2005年10月9日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細ーColorado州Mesa郡, Montezuma郡, Ouray郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月18日, 2005年9月25日):ウマにおいて疑い例9例, 症例5例, ウシにおいて疑い例120例, 症例1例。Colorado州Big Horn郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月25日, 2005年9月28日):ウマにおいて疑い例48例, 症例5例。ーNebraska州Scotts Bluff郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月29日, 2005年9月30日):ウマにおいて疑い例6例, 症例1例, ウシにおいて疑い例61例, 症例3例。ーUtah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月23日):ウシにおいて疑い例8例, 症例3例。ーWyoming州Bighorn郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡の農場(11件)(アウトブレイクの開始日2005年8月15日~2005年10月1日):ウマにおいて疑い例83例, 症例11例, ウシにおいて疑い例208例, 症例4例。
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイルス 感染	OIE Disease Information 18(42) 2005年10月21日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 21。今回報告終了日ー2005年10月16日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクーWyoming州Bighorn郡Lovellの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月9日):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例。ーWyoming州Carbon郡Encampmentの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月4日):ウマにおいて疑い例5例, 症例1例。ーWyoming州Fremont郡Rivertonの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月29日):ウマにおいて疑い例3例, 症例1例。ーWyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月29日):ウシにおいて疑い例100例, 症例1例。ーWyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月30日):ウシにおいて疑い例37例, 症例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(43) 2005年10月28日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 22: 今回報告終了日-2005年10月23日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日。アウトブレイクの開始日-2005年4月16日。新規アウトブレイク-COLORADO州Delta郡Delta, Mesa郡Grand Junction, Montezuma郡Cortezの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月1日, 2005年10月5日):ウマにおいて疑い例7例, 症例2例, ウシにおいて疑い例55例, 症例1例。-Idaho州Caribou郡Graceの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月9日):ウマにおいて疑い例9例, 症例4例。-Montana州Big Horn郡St. Xavierの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月6日):ウマにおいて疑い例2例, ウシにおいて疑い例27例, 症例4例, ヒツジにおいて疑い例37例, ヤギにおいて疑い例1例。-Utah州Summit郡Oakleyの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月8日):ウマにおいて疑い例5例, 症例1例, ウシにおいて疑い例12例。-Wyoming州Big Horn郡Hyattville, Campbell郡Gillette, Carbon郡Encampment, Fremont郡のPavillion農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年9月24日~2005年10月10日):ウマにおいて疑い例23例, 症例4例, ウシにおいて疑い例350例, 症例2例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(44) 2005年10月30日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 23: 今回報告終了日-2005年10月30日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク-COLORADO州Delta郡Crawford, Mesa郡Grand Junctionの農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月17日, 2005年10月28日):ウシにおいて疑い例31例, 症例2例, ウマにおいて疑い例10例, 症例1例。-Nebraska州Scotts Bluff郡Lymanの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月12日):ウシにおいて疑い例16例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例251例。-Utah州Box Elder郡Park Valleyの農場, Duchesne郡Bluebell農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月20日, 2005年10月18日):ウマにおいて疑い例23例, 症例8例, ウシにおいて疑い例3例, プタにおいて疑い例12例。-Wyoming州Big Horn郡Burlington, Carbon郡Encampment, Sweetwater郡McKinnenの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月12日~2005年10月16日):ウマにおいて疑い例58例, 症例2例, ウシにおいて疑い例470例, 症例8例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(46) 2005年11月18日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 24: 今回報告終了日—2005年11月13日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Eagle郡Burns, Garfield郡Rifle, Mesa郡Collbran, De Beque, Grand Junction, Montezuma郡Dolores, Ouray郡Ridgewayの農場(8件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日, 10月21日, 10月22日, 10月25日, 10月27日, 10月30日): ウシにおいて疑い例719例, 症例4例, ウマにおいて疑い例43例, 症例5例。—Montana州Big Horn郡Hardinの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日): ウシにおいて疑い例200例, 症例4例。—Wyoming州Natrona郡Casperの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月30日): ウマにおいて疑い例10例, 症例2例。—Wyoming州Park郡Powellの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月7日): ウシにおいて疑い例100例, 症例5例, ウマにおいて疑い例1例, 症例0例。—Wyoming州Sweetwater郡McKinnenの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月10日): ウシにおいて疑い例500例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(49) 2005年12月9日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 25: 今回報告終了日—2005年12月4日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例5例, 症例1例。—Colorado州Montrose郡Olatheの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月15日): ウマにおいて疑い例3例, ウシにおいて疑い例10例, 症例1例。—Wyoming州Johnson郡Kayceeの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月1日): ウマにおいて疑い例6例, ウシにおいて疑い例18例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例4例。—Wyoming州Natrona郡Evansvilleの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月6日): ウシにおいて疑い例47例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 27: 今回報告終了日—2005年12月31日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例222例, 症例3例。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Public Health Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例を確認した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスク、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するもの、などが記載されている。
												BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(CFIA)は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。このウシは国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告では、米国産牛肉は非常に安全であることが強調された。
												BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE: (米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時: 2004年11月, および確定された日時: 2005年6月) 今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイクの開始日2006年2月27日): ウシにおいて疑い例50例, 症例1例, 処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。アウトブレイクの原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。その他の詳細/コメント-米国において報告されたBSEの2例目の確定例であることなど。
114	2006/4/26	60114	セローノ・ジャパン株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	カナダ Public Health Agency of Canada/ Infectious Diseases News Brief 2005年10月28日	2005年10月24日, 保健局のCentre for Health Protection (CHP) は Streptococcus suisの検査確定に関する報告を受けた。症例は2005年にStreptococcus suisに感染した, 香港における12例目の症例である。症例は43才男性で, 最近の旅行はなく, 2005年10月13日に入院し, 同じ日に死亡した。症例の家族は医学的観察下におかれている。CHP職員は追加情報の為に, 症例の家族および病院スタッフとの連絡を取り続けている。Streptococcus suis感染症は中国本土において約40名を死に至らしめている。
												細菌感染	ProMED20051015-0040	中国衛生部はコレラ患者の増加に対し, 警告を発した。中国では2005年6月から9月の間に638人のコレラ患者の報告を受け, そのほとんどは福建省と浙江省であった。
												デング熱	ProMED20051106-0080	中国(香港)の健康保護センターは, 50才女性の新たなデング熱輸入患者を確認したことを受けて, 市民にデング熱の感染予防を呼びかけている。女性患者は, 10月15日に発症した際, バングラデシュ滞在中であった。2005年の香港でのデング熱患者数は23名となり, 全例が輸入患者である。
												デング熱	ProMED20060119-0100	中国(香港)の健康保護センターは, 2006年, 2例目のデング熱輸入患者を確認した。症例は22才の男性で, 最近インドネシアに旅行している。(情報源: News.gov.hk, 2006年1月11日)
												デング熱	ProMED20060128-0020	中国(香港)の健康保護センター当局は, Siu Sai Wan在住の29才女性のデング熱感染を確認したが, 今回の患者発生により, 2006年の合計患者数は3名となった。全て輸入例である。患者は, 2005年12月21日から2006年1月1日までインドネシアを旅行した後, 1月3日に発症した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED20060305-0130	香港で、1月27日から30日にタイに滞在した48才の女性が、2月4日にデング熱を発症、9日に入院、15日に退院した。2006年の患者は4例で、全て輸入例である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	トリインフルエンザ(update 41): 中国衛生省は同国における初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染症ヒト症例2例を確認した。1例目はHunan省の9才の少年で、2005年10月17日に呼吸器症状により入院し、完全に回復し、帰宅している。2例目はAnhui省の家禽農場労働者の24才女性で、2005年11月1日に発症、11月7日に重度の肺炎により入院、11月10日に死亡した。さらに、ヒト疑い症例2例がHunan省において調査されている。中国におけるヒト症例に対するサーベイランスは、家畜における高病原性H5N1トリインフルエンザの再発を受け、先月から強化された2005年10月19日以来、中国は6省におけるアウトブレイク11件を報告している。(ヒト)確定例がみられたHunan省およびAnhui省は、最近感染が起こった省に含まれている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月24日	トリインフルエンザ(update 42): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(3例目)を確認した。死亡した症例はAnhui省において農業従事者として労働していた35才の女性で、2005年11月11日に発症、11月15日に入院そして11月22日に死亡した。この症例は中国における3例目の検査確定症例(2例が死亡)で、Anhui省においては2例目である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月7日	トリインフルエンザ(update 46): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(4例目)を確認した。症例は、Guangxi省の10才の少女で、2005年11月23日に発熱および咳の症状を発症し、その後肺炎となり、依然として入院中である。地元の保健当局は暴露原因を確定するため、および患者の住んでいた村および近隣地域における追加症例の捜索の為に調査を開始した。現在のところ、インフルエンザ様疾患の追加症例は明らかとなっていない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005 年12月9日	トリインフルエンザ(update 47): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(5例目)を確認した。症例は中国北東部のLiaoning省の31才の農婦で、2005年10月30日に発症し、その後重症肺炎と急性呼吸窮迫により病院の集中治療室に収容された。症例は回復し、11月29日に退院した。この症例の初期検査はH5ウイルスサブタイプに対する感染は陰性であったが、microneutralization法による抗体検査により、発症後期に確定診断された。2005年10月末より、Liaoning省では家畜における高病原性H5N1トリインフルエンザのアウトブレイクが数回報告されている。調査の結果、この症例の感染は、発病した家畜との直接的暴露との関連が示された。農業当局は同省での家畜からH5N1ウイルスを検出している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005 年12月16日	トリインフルエンザ(update 49): 中国衛生省はさらに1例のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は南東部のJiangxi省在住の35才男性である。男性は12月4日に熱の症状を呈し、その後肺炎になった。現在も入院中であり、集中ケアを受けている。農業当局は患者の住居の近くにあったアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認している。この症例は中国における第6番目の検査確定症例である。そのうち2例が死亡している。現在までに、中国は5つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi)から症例を報告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005 年12月30日	トリインフルエンザ(update 51): 中国衛生省は中国本土においてH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は南東部のFujian省在住の41才女性で、2005年12月6日に熱とそれに続く肺炎の症状を発症し、2日後に入院し、12月21日に死亡した。12月13日、患者からの検体に関する初期検査はH5N1陰性であったが、12月23日の更なる検査で陽性を示した。患者からウイルスも分離された。医学的監視下に置かれている密接な接触者はいかなる症状も示していないと衛生当局は報告している。農業当局は現在までに、患者の住居や仕事場の周辺の家畜においてH5ウイルスサブタイプの存在を確認できていない。調査員は発症する前の、患者と家畜の直接的な接触を確認できていない。この症例は中国における7例目の検査確定症例で、これらの症例のうち3例(本症例を含む)が死亡している。現在までに、中国は6つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian)から症例を報告している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月10日	中国におけるトリインフルエンザの状況: 中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。新規確定症例の初期調査により、家庭で飼育していた家禽の死亡が暴露原因である可能性があると示唆されたが、この地域における家禽のアウトブレイクは公式には報告されていない。密接な接触者は医学的監視下におかれているが、現在のところ、症状を示しているヒトはいない。この症例はHunan省での2例目の症例である。先に報告された同省の症例は、2005年11月中旬に中国で最初に報告された2例のうちの1例であるが、今回の症例とは約300km離れたところに住んでいる。Hunan省に加え、H5N1感染症ヒト症例を報告している省・自治区はAnhui, Guangxi, Liaoning, JiangxiおよびFujianである。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は中国中南部のSichuan省在住の35才女性で、家禽の屠殺に従事していた。症例は2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。症例が屠殺作業中に感染したのか、住んでいる村において感染した鳥類への直接的暴露の結果として感染したのかどうかを決定するための詳細調査が実施されている。症例は、密接した住居に8組の家族が居住している住宅に住んでいた。これらの家族メンバーおよび他の密接な接触者が医学的監視下に置かれている。インフルエンザ様疾病の症状は現在のところ報告されていない。この新規確定症例は中国におけるこの症例は中国における9例目の検査確定症例で、これらの症例のうち6例が死亡している。7つの省・自治区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, HunanおよびSichuan)において症例が発生している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月25日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update2): 中国衛生省は、同国で10例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は、南中央部のSichuan省、Chengdu市の29才女性で、2006年1月12日に発熱し、肺炎症状で入院したが、急速に悪化し、23日に死亡した。感染源として病気のトリへ暴露した可能性に関する情報は現在のところないが、調査が実施中である。これは今年(2006年)に中国において報告された2例目の症例(いずれもSichuan省から)である。このSichuan省の2症例は、約150km離れた異なる県において発生していた。Sichuan省の他の地方では、家禽におけるH5N1アウトブレイクが、2005年12月下旬に開始していた。2症例が居住する地域におけるアウトブレイクは確認されていない。中国において確認された10例のうち、7例が死亡している。7つの省および地区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, Hunan, およびSichuan)において症例が発生している。うち2省では家禽におけるアウトブレイクは公式に報告されていない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3): 中国衛生省は同国で11例目となる検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症例1例を報告している。症例は中国南東部のFujian省出身の28才農婦で、2006年1月10日に発症し、その後肺炎で入院し、現在も安定した状態で治療中である。中国におけるほかの多くの症例と同様に、この症例は家禽における最近のアウトブレイクが公式に報告されていない地域において発生した。中国における検査確定症例11例のうち、7例が死亡している。症例は7つの省および地域で発生している(Anhui, Fujian, Guangxi, Jiangxi, Hunan, LiaoningおよびSichuan)。散発的なヒト症例が継続しておこっていることは、少なくとも中国の特定の場所でウイルスがトリの間で循環していることを示している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月13日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4): 中国衛生省は同国で12例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告している。症例は中国南中央部のHunan省出身の20才の農業従事者の女性で、2006年1月27日に発症し、その後重度の肺炎で入院した。家庭で飼育している家禽の処分後に発症した。症例は2月4日に死亡した。これまでに中国は12例の検査確定症例を報告しており、そのうち8例が死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update5): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例2例(13例目、14例目)を報告した。両症例とも重症である。1例目は中国東部のZhejiang省の9才の女兒で、2006年2月10日に発症した。隣接するAnhui省の親戚を訪問した後に発症した。2004年以来、Zhejiang省において動物のアウトブレイクは報告されていない。2例目はAnhui省の26才の農婦で、病気の家禽と接触した後に、2006年2月11日に発症した。地域の農業当局が女性の近所で死亡した家禽からの検体においてH5N1ウイルスが単離されたことを報告している。これまでに、中国は検査確定症例14例を報告しており、そのうち8例が死亡している。H5N1ウイルスは今や中国の多くの地域の鳥類に蔓延していると考えられる。WHOは中国当局と協力し、トリインフルエンザに対する一般市民の意識を向上させ、人々にアウトブレイクの報告を促し、死亡した、あるいは病気の鳥類との接触を避けるように人々に警告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update7): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における10例目の死亡症例を報告した。症例は中国東部のZhejiang省の9才の女兒で、2006年2月10日に発症し3月6日に死亡した。この症例は2006年2月27日に中国当局によりすでに告知されており、その際には症例は重症であるとされていた(13例目)。現在のところ中国は検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症例15例を報告しており、そのうち10例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月6日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update6): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例1例を報告した。症例は中国南部のGuangdong省の32才の男性で、2006年2月22日に発熱を発症し、肺炎となった。症状は急速に悪化し、3月2日に死亡した。男性は無職であった。2004年以来、Guangdong省において家禽におけるアウトブレイクは報告されていない。これまでに、中国は検査確定症例15例を報告しており、そのうち9例が死亡している。2例が依然として重症にある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月24日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update8): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における16例目の症例を報告した。症例は死亡症例で、29才の出稼ぎ労働者女性で、2006年3月15日に上海の病院に肺炎の症状により入院し、21日に死亡した。この症例は上海において報告された初めての症例である。この症例の感染源は調査中で、上海地区では2004年2月以来家禽のアウトブレイクは報告されていない。中国当局によると、女性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例16例を報告しており、そのうち11例が死亡している。
115	2006/4/26	60115	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	アメリカ、オーストラリア、カナダ	製造工程	有	無	有	ウシ臙ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日-2005年9月28日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-COLORADO州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例, 症例1例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例。-Montana州Carbon郡, Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月28日~2005年9月14日):ウマにおいて疑い例9例, 症例6例, ヤギにおいて疑い例2例。-Wyoming州Big Horn郡, Fremont郡, Goshen郡, Hot Springs郡, Park郡, Platte郡, Sublette郡, Washakie郡の農場(15件)(アウトブレイクの開始日2005年8月21日~2005年9月15日):ウマにおいて疑い例84例, 症例15例, ウシにおいて疑い例855例, 症例7例, ヤギにおいて疑い例2例。
												ウシ臙ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(40) 2005年10月7日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 19。今回報告終了日-2005年10月2日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-COLORADO州Delta郡, Mesa郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月5日, 2005年9月19日):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例30例, 症例1例。-Idaho州Bear Lake郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月16日):ウマにおいて疑い例14例, 症例2例, ウシにおいて疑い例360例。-Utah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日):ウマにおいて疑い例7例, 症例1例。-Wyoming州Bighorn郡, Carbon郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡, Platte郡の農場(13件)(アウトブレイクの開始日2005年9月12日~2005年9月24日):ウマにおいて疑い例393例, 症例15例, ウシにおいて疑い例2100例, 症例5例。